

## まさかの難病が発覚！？

40歳代 女性

私の体に突如痛みが襲ってきたのは4年前の事でした。痛みが手指第2関節から始まり、あっという間に全身に広がっていったのです。「関節リウマチ」を疑い、数か所のリウマチ医を訪ね検査をしましたが、リウマチ特有の因子は見つからず、関節リウマチは否定的でした。しかし痛みの限界がきていた頃、発症経過や多関節に滑膜炎があるということで「関節リウマチ」として治療が始まりました。治療薬は当然「関節リウマチ」の治療薬。

一時的には痛みを抑えられましたが、徐々に痛みが増し、投薬の数も増え、次第に異常な痛みが出始めたことで、座っていることも起きていることさえ出来なくなり、寝ていても痛みで眠れない状態にまでなってしまいました。自分でもこの異常なまでの激しい痛みがどこからくるのか知りたくて、ネットで随分と探したものです。行きついたのは、「線維筋痛症」を発症してしまっているのではないかと疑い、紹介先の専門医により「線維筋痛症の完全型」と診断されました。早速治療が始まり痛みは随分と軽減されたのですが、酷い筋疲労感、倦怠感が強く生活する上で困っていました。そこで、かかりつけリウマチ医から「線維筋痛症の第一人者」であるO先生を紹介して頂きました。今までの治療とは違い、自由診療も含めた治療をして頂いた結果、初診日には杖歩行で受診したのに帰りは杖が必要ないほど効果を実感し、驚きを隠せませんでした。

しばらくして“この調子だと社会復帰できるかな〜”と思っていた矢先に再び全身に痛みが出始めたのです。それも、20代後半に発症した腰痛や背部痛を始め、全身の付着部の痛みが日増しに強くなっていきました。また寝たきりになるのでは？と不安と焦りがありましたが、このことをO先生に伝え診察してもらった結果、「血清反応陰性脊椎関節炎」であることが分かったのです。それも、何年も慢性的に進行し「強直性脊椎炎」の病態を示していたため難病申請をして下さいました。自分の中でも発症時から疑問に思っていた病気の正体ははっきりわかり、今では的確な治療をして下さったことで生活上困ることはなくなりました。社会復帰も果たせそうです。

この「脊椎関節炎」と「線維筋痛症」の症状部位は重なる部分が多く、私のように「線維筋痛症」として誤診される方がとても多いそうです。また「関節リウマチ」のような症状の出方をする脊椎関節炎患者がいるということももっと沢山の方に知って頂き、一刻も早く的確な診断と治療が出来ることを祈るばかりです。この病気の診断は難しく、たとえリウマチ医でも診断を下すことは容易ではないようです。

私の体験談が少しでも皆様のヒントになれば幸いです。